

教育長賞

(小学生の部)

心の温かさを感じられる世の中に・・・

岸和田市立常盤小学校6年 住田 小夏 さん

「かなわんわー。」

祖父が言うので、話を聞いてみると、

「米盗んでいく人がおるんやー。かなわんわ。」

そういえば、私は新聞やニュースで全国でお米が盗まれていると聞いたことがありました。農作物の盗難について調べてみると、さくらんぼやももなどの果物、キャベツや白菜などの野菜も盗まれていることがわかりました。

私の祖父母はお米・野菜・お茶作りをしています。私も身近で農作業の様子を見たり、手伝ったりしているので、農作物の盗難のニュースを見ると悲しい気持ちになります。私は、農家の人の思いや苦勞をみんなに伝えるべきだと思ってこの作文を書きました。そうすることによって、農家の人の苦勞がわかれば、盗難被害が減ると思ったからです。

夏休み、私は稲刈りを手伝いました。お米を収穫するまで、約五か月かかるということを知り、おどろきました。

まず、種まきがあります。私の母は、小さい頃、苗作りを手伝っていたそうです。ビニールハウスで温度管理をするのが大変だと言っていました。

次に、しろかきや田おこしをしてから、田植えをします。機械でできることは、早く終わりますが、田の周りの草を刈ったり、手で苗を植えたりなど、手作業でするところは大変みたいです。

そして、水の管理や害虫対策、除草作業をしてから、稲刈りをします。水の管理は、田植えをしてから稲を刈るまで毎日しているそうです。また、稲刈りの時期は、ちょうど台風が起りやすいので、川がはんらんすると、米がダメになってしまうことがあります。私も、毎年父と妹と一緒に祖父のお手伝いをします。うだるような暑さの中で何時間も稲刈りをする祖父がすごいなと思いました。最後に、うすすり（もみすり）をして、袋詰めをします。私は、その様子を見ているだけで、花粉症のような症状が出てつらかったです。しかし、そのような環境の中で作業をしている方がもっと大変だと思いました。祖父は、何か月もかけて、一生懸命米を作り、さまざまな苦勞があることがわかりました。私は、食べ物当たり前にあるものじゃないと感じました。

他の農家の人も同じような思いや苦勞をしているはずです。大切に育てた農作物を、

収穫の直前に盗まれてしまったら、落たんするだけではなく、生活にも困ってしまいます。

最近、農作物の値段が高くなっていて、売ればお金になると思って盗む人もいます。でも、だからといって盗んでいい理由にはなりません。盗みは犯罪で、どんな理由があっても許されません。自分の欲望のために犯罪を犯す人に、相手の気持ちを考えられるようになってほしいです。生産者の向こうには、農作物の入荷を待ち望んでいる消費者がいます。農家の人の苦労を理解し、盗難が減る社会になってほしいです。

農家の人たちは、盗難対策として倉庫の窓や出入口の施錠を徹底したり、防犯カメラを設置したりしているそうです。私の祖父も

「かぎ閉めとかなあかなー。」

とっていました。

私は、農家の人たちの仕事の大変さや、食べ物のありがたさを体験を通して知ることができました。これからも、食べ物を大切にして、農家の人たちに感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。

そして、今後一番大切にしたいことは、人の温かさを感じられる社会を作ることです。人は、家庭・学校・職場などで人と人が心でつながっていると実感することができます。犯罪に手をそめないだろうと思います。私は、稲刈りが終わって帰ってきた父に

「おつかれさま。」

と言いました。それを聞いていた母に

「稲刈りの大変さを知っているから、自然に出た言葉やね。」

とほめられました。その時、私はハッと気づきました。日頃から、相手の気持ちを考えて声かけをしたり、相手の話をしっかり聞いたりするコミュニケーションが重要だということ。

このように、信頼関係を築くために、日々相手の立場に立って考えたり、悩んでいる人がいたら、よりそえる人になりたいです。まずはたくさんの人に自分からあいさつをしていきたいです。